

令和5年9月20日（水曜日）

予算決算委員会総務分科会

第1委員会室

出席委員

三和 衛、妻鹿幸二、有馬剛朗、宮下和也、
常盤真功、石堂大輔、竹中由佳、坂本 学、
谷川真由美

【総務委員会（消防局）の審査】

開会 10時36分

消防局 10時36分

送付議案説明

・議案第102号 令和4年度姫路市一般会計決算認定について

質疑 10時53分

（質問）

広峰分団詰所の改築工事は資材高騰で増額補正しているが、令和6年度予算編成を今後行う中で、引き続き資材や人件費の高騰が続いているので、その点を十分考慮してほしいと思うがどうか。

（答弁）

しっかりと予算要望していきたいと考えている。

（質問）

消防団員の費用弁償や分団運営費の関係で、昨年度の火災事故の際に出動した団員数について説明してもらいたい。

（答弁）

1,414人が出動している。なお、水防では13人が出動している。

（質問）

防災プラザ管理運営費のほとんどが委託料となっているが、委託先と来館者数について説明してもらいたい。

（答弁）

案内業務は大建に、保守点検業務は丹青社に委託している。

令和4年度の来館者数は1万1,522人、令和3年度は9,293人であり、コロナ禍が落ち着き、来館者数は増加している。

（質問）

消防音楽隊の経費について、コロナ禍でイベントも少なかったと思うが、何に使われているのか。

また、音楽隊員の練習は非番の時にいき、業務に影響が出ないようにしていると思うがどのように考えているのか。

（答弁）

令和4年度で13回の出演があった。コロナ禍で若干回数は減ったものの、市のイベント等には出演している。

音楽隊の経費、支出済額約120万円の内容は、講師謝礼55万円、楽器の調律費等が主なものであり、令和4年度は調律に若干の費用を要している。

出演前の練習については、各職場がカバーすることで非番時以外の勤務時にも参加しているときがある。

（要望）

他の職員に負担がかからないような体制をしっかりと整えてもらいたい。

（質問）

団員等公務災害補償費約450万円について、何人に支払っているのか。

（答弁）

介護補償に伴う障害補償年金が1人、死亡による遺族補償年金が1人、療養補償が1人の合計3人に支払っている。

（要望）

消防団員は、消防の職員のように訓練を積み重ねてきているわけではないので、いろいろトラブルもあり得ると思う。

しっかりとサポートしながら、連携を進められたい。

消防局終了 11時07分

【総務委員会（デジタル戦略本部）の審査】

休憩 12時26分

再開 13時25分

デジタル戦略本部 13時25分

送付議案説明

・議案第102号 令和4年度姫路市一般会計決算認

定について

質疑

13時33分

(質問)

歳入の収入未済額の説明で、夢前ケーブルネットワーク使用料 2 万 7,000 円は、28 人分とのことであるが、なぜ低い額を回収できないのか。

(答弁)

夢前ケーブルネットワーク使用料については、居所不明の方と、亡くなった方がほとんどである。

(質問)

デジタル・マネージャーへの報酬が委託料というのはどのような考え方であるのか。

(答弁)

会社への委託料と個人への報酬との 2 つに分かれている。

報償費については、デジタル・マネージャー 3 人分で、83 万 8,000 円である。

主に浦田デジタル・マネージャーの分で、デジタル戦略やデジタル戦略タスクフォースの進捗管理のため、昨年度は 14 日間来ていただいた。

委託料については合計 1,474 万円で、サイバーエージェントと日本情報通信に委託している。

主な内容はスマートシティ事業の支援や人材育成の支援である。

(質問)

デジタル・マネージャー 3 人の中でトップの責任者は決まっているのか。

(答弁)

特に決まっていない。

令和 3 年から 3 人のデジタル・マネージャーを招聘しているが、それぞれ担当分野が違う。

デジタル戦略のスマートシティの一部、タスクフォースの内容、人材育成のプログラム等で、各分野に分けて依頼している。

(質問)

決算であるから費用対効果の面を見たい。

デジタル・マネージャーは役立つのかとの指摘もあった。

素人考えでも 6 つのアプリを持つということに疑問を抱くが、デジタル・マネージャーから何か助言はあったのか。

(答弁)

それぞれのアプリを統一するべきだという意見は聞いていない。

母子健康手帳アプリなどは市中に結構あり、他都市でも使っているアプリを導入するものである。

ただ、アプリが乱立するのは良くないと考えており、その部分については精査したい。

(質問)

専門分野の人は専門の部分しか意識せず、総括的な視点が欠如することもあるかと思うので、ぜひデジタル戦略室のほうで戦略を持って進められたいと思うがどうか。

(答弁)

デジタル・マネージャーについては、UI/UX、いわゆる見た目や使い方の部分での助言をいただいております。指摘いただいたようなアプリの統合等も含めて、今後検討していきたい。

(質問)

夢前ケーブルネットワーク使用料の中で、居所不明や死亡による未収金について、今後収入することは難しそうなのか。

(答弁)

同使用料の未収金の件であるが、今回 28 人分を不納欠損処理して、あと平成 29 年と 30 年の 2 年分が残っている状況である。

内訳としては 28 人に係る全 92 件に対して 1 月当たりの使用料 300 円を掛けたものであるが、ほとんどが居所不明や亡くなられた方の分であり、回収することは難しいと考える。

(質問)

財産売払いの部分で使用済パソコンの売払いという説明があったが、この金額について、パソコンそのものを売っているのか、あるいはたまたま何らかの理由でここだけ金額がついたものであるのか。

(答弁)

基本的に市が調達するパソコンはリースで調達したものを返却するという形を取っている。

そのほか補助金等で購入が条件となっているようなパソコンが一部あり、それらについては購入している。

購入した分は、ハードディスクを使えないように

した後、廃棄物として処分しているが、試しに売りに出したところ売れたものである。

(質問)

出退勤システムについて、どのような効果を期待して導入したものであるのか。

(答弁)

土日出勤する職員も含めて、勤務時間外に当該職員が入庁・退庁する時に、マイナンバーカード等で入退庁するという仕組みを導入することにより、出退勤の管理が細かくできるようになる効果を期待している。

またこれまで、時間外に守衛室に紙を渡して終了時刻を記入してもらい庶務事務システムに入力していたものを直接同システムに記録されることで事務の効率化を図るとともに、併せて入退庁時のセキュリティ向上効果も目指したものである。

(質問)

出退勤システムを令和 4 年度に導入し、実際どれぐらいのシステム導入費用がかかったのか。

(答弁)

システム構築と入退庁システムの導入とを合わせて 6,900 万円である。

(質問)

ランニングコスト的なものとしては、システム維持、保守などであるのか。

(答弁)

令和 5 年の 8 月から本格稼働している。令和 5 年の運用費はかかっていない。(発言訂正あり)

(要望)

費用対効果の面で言うと単費で導入されたとのことであるので、その辺りも含めて今後の運用をしっかりされたい。

デジタル戦略本部終了

13時51分

【総務委員会(政策局)の審査】

政策局

15時06分

送付議案説明

- ・議案第 102 号 令和 4 年度姫路市一般会計決算認定について
- ・議案第 108 号 令和 4 年度姫路市奨学学術振興事

質疑

15時23分

(質問)

海外留学生奨学金は、海外に行こうとする人に渡しているのか、外国の人に渡しているのか、どちらであるのか。

(答弁)

海外から日本の大学に留学に来られた外国の人に対しての奨学金である。

(質問)

対象は何名分であるのか。

(答弁)

新規が 1 名と、継続が 4 名の合計 5 名である。

(質問)

どのような目的の事業であるのか。

(答弁)

海外との交流を推進することを目的としている。

(質問)

当該事業は見直しの対象には入ってこないのか。

(答弁)

奨学学術振興基金という基金の運用益を活用して行っている事業であり、今回の事業見直しの対象にはなっていない。

事業見直しの枠組みとしては、一般財源で市単独事業ということであり、対象からは外れている。

(質問)

今後の展開としてはどのように考えているのか。

(答弁)

政策局としては SDG s 未来都市の実現に向けて、海外との交流であるとか、グローバルな人材育成に努めて積極的に広げていくといった方向性を持っている。

ただ、昭和 55 年から同じ枠組みでやってきている高校生のホームステイについて、もっと若者に海外に目を向けていただく、また海外から来ていただくということで、費用対効果の面からも、他に効果的なやり方はないものかと考えているところである。

同じホームステイをするにしても、課題や経費の負担がかなりあるので、見直しができないか進めていく。

その 1 事業として、これがベストなのかを検討す

るというようなことで現在取り組んでいる。

(質問)

留学生の受入れは、姉妹都市からのみになっているのか。選考方法はどのようになっているのか。

(答弁)

姫路市内の私立大学、県立大学に海外から来られている留学生を対象としており、留学生の出身国に関する制約は特にはない。

海外姉妹都市からの留学生のみを対象にしているものではない。

(質問)

そうであるならば、先ほどの交流するという話とは少し違うのではないのか。

交流をするために、奨学金を出すから姫路に来てくれているのであれば、その国との交流も含めてやっぺいこうという趣旨なら分かるが、来た人が申請をしましたというのは、別にその国とか自治体と交流しましょうと言っている話ではないのではないのか。

(答弁)

交流の捉え方であるが、国同士の交流ということではなくて、海外から留学して来られた外国人と、その大学に通っている日本人との人と人との交流、それによって国際理解であるとかグローバルな視点を日本の学生にも学んでいただくといった意味での交流を深めていくことを目的としたものである。

(質問)

海外にいる人たちに対して、奨学金を出すから来てもらって交流しようという話であれば理解できる。

例えば姫路に行きたいからエントリーをして、奨学金を出して来てもらう。

ところがこの方達は、自らの意思でこちらに来ており、放っておいても交流が生まれるわけである。

事業見直しに関しては、財源の面から見れば基金であるので別物であると理解したが、もっと他の考え方、使い方もあるのではないかと思うがどうか。

(答弁)

あくまでも奨学金制度であるため、主に経済的な理由によって就学が困難な学生への支援を前提に奨学生の選考を行っている。

それ以外のプラスアルファの部分として、学生の交流が促進されるという面もある。

奨学生の選考の際は、寄附者代表の方も委員に迎えて、有効活用するための議論をしているので、その中で提案させていただきたい。

(質問)

決算資料中の各種調査研究費 1,440 万 3,000 円について、どのような調査を行ったものであるのか。

(答弁)

高齢者の支援事業に係る調査として健康福祉局で執行したもの、大手前公園の地下駐車場の維持管理機能向上に係る調査として姫路城総合管理室が行ったもの、道の駅の交通シミュレーションとして道の駅整備室が行ったもの、遠隔診療調査として健康福祉局の地域医療課が行ったものなどである。

(質問)

ひめじ創生戦略推進経費 2 億 3,000 万円については、主にどのような事業であったのか。

(答弁)

主なものとしてはHimeji SDGs EXPOの補助金で 1,100 万円、それ以外に地方創生推進交付金の関係の事業で 6,994 万円、ふるさと納税に関する経費が 1 億 1,700 万円である。

(質問)

連携中枢都市推進経費 887 万 7,000 円は、主にどのような事業であったのか。

(答弁)

主なものは播磨地域の情報発信事業としてははりまサタデー9 を活用した 445 万円、はりま読本の印刷製本経費が 147 万円、兵庫県と連携した姫路播磨の酒の海外プロモーション事業が 225 万円である。

(質問)

ふるさと納税の経費は、ひめじ創生戦略推進経費の中に入っているのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

災害対策費の中のデジタル防災行政無線について、自然災害やコロナ、熱中症アラートなどさまざまな場面で使われているが、その効果としての確に人の動きを規制することができていたのか。

(答弁)

全市域の放送を運用開始してから約 360 回行って
おり、その中で防災に係る情報のほか、保健所等から
コロナに係る放送や選挙広報などを行った。

それによってどのような規制ができたかという
と、そこまでの確認はできていないのが実情である。

(質問)

各局との連携といった部分の関わりはあったのか。

(答弁)

各局から全地域に情報発信したい情報がある場合
は、その依頼を受けて内容を確認した上で放送する
といった関わりがあった。

(質問)

避難所ガイドでアプリを連携されているところに
費用はかかっているのか。

(答弁)

避難所ガイドの費用については、月約 8 万円、年
間で約 96 万円となっている。

(質問)

デジタル防災行政無線が市民生活に影響するもの
であることは承知しているが、結局どれだけの効果
が出ているのかが重要であり、市民の行動に結びつ
かなければ意味がない。それが不明確なままやり続
けるのはいかがなものか。

費用をかけて発信する以上、どれだけの効果があ
るのか確認すべきであると考えているがどうか。

(答弁)

今後は、依頼いただいて流した放送に対して行動
を促し、その結果どれだけ申込みがあったとか、来
所者があったとかの効果を確認しながら検証のベー
スとしていきたい。

確認の手法については、今年度からLINEを使
えるようにしていき、ひめパスを広めていくとプッ
シュ型の通知を送れるようになるので、連携がとれ
れば経費をかけずにアンケートと同じ効果が期待で
きる。

そういったツールを全庁的に広めていき、プッ
シュ通知を行うと同時に、市民の声や効果等を予算
編成に組み込むことでPDCAに繋げていく方向で
いろいろな事業を検証していきたい。

(要望)

防災行政無線は本当に必要なものであると思っ
ており、ぜひ市民に届くようなやり方で進められたい。

今後、アンケート調査がしやすい環境を整え
ば、その費用対効果がどのようになっているかも確
認してもらいたい。

政策局終了

15時47分

会計課

15時48分

送付議案説明

・議案第 102 号 令和 4 年度姫路市一般会計決算認
定について

質疑

15時49分

(質問)

決算委員会ではこれまで資料や領収書が置かれて
いたが、それを見られなくなったということか。

以前は不備が少しあったこともあったが、今回は
どのような状態だったのか。

(答弁)

書類の状況であるが、以前には請求書の日付や印
鑑が漏れているといった指摘をされたこともあった。

それに関しては当時から厳格に運用していくよう
な指導あるいは周知をしている。書類に関しては会
計課で審査をしているが、審査の状況としては不適
切なものはない。

会計課終了

15時52分

【総務委員会（会計課）の審査】

デジタル戦略本部

15時53分

(発言訂正)

答弁の訂正をしたい。

入退庁出退勤システムの運用経費についての質問
の中で、運用費がかからないと説明したが、令和 5
年度において、運用保守の委託料として 218 万
7,900 円を予定している。

デジタル戦略本部終了

15時54分

散会

15時54分